計画もプロセスも乱暴すぎる

富山市議会
3月定例会
2022年2/28～3/24

小・中学校「再編」 27校の「廃校」計画を盛り込む

富山市教育委員会は2月24日、小・中学校の再編計画を決定。計画は小学校25校、中学校2校の「廃校」を盛り込みました。

吉田おさむ市議は一般質問（3月10日）で、計画もプロセスも乱暴すぎると指摘しました。赤星ゆかり市議が総務文教委員会でも質問しました。

「歩いて通えない学校・子どもたちを大量につくることになる」

吉田市議 一般質問

赤星ゆかり議員（3/11 本会議）

吉田おさむ議員（3/10本会議）

吉田市議は、「再編原案の諮問から3ヵ月半で、地域住民の意見を聴くこともなく、「通学区域審議会」がほぼ原案どおり妥当との答申を出した。1学年1学級のすべてを統合する計画も、審議会のすすめ方も乱暴すぎる」と批判。審議会のある委員は、「小規模校を残してほしい、との、地域の皆さんの声を伝えても、まともに取り上げてくれなかった」と述べ、審議会を傍聴されたある自治振興会長は、「委員が意見を言っても会長が押しつぶす。あれ何け～」との感想を紹介しました。

小規模校へのリスペクトが見られない

吉田市議は、小規模特任校の婦中町朝日校区の活動を紹介。「少人数だからできる。少人数だからおもしろい」がキャッチコピー。新年度から複式学級から脱却、これからも子どもは増える。学童保育も夜7時まで。支援員は23人が登録し、世代間交流になっている。保護者からも大好評。地域のリーダー

建設的な提案があれば

教育長答弁

「計画の変更も…」

吉田市議は、宮口克志教育長は1月31日の審議会の席上、「計画は、たたき台でありスタートライン。期限を設けず地域の皆さんと議論していきたい。地域から新たな案があれば計画の変更もあり得る」と述べられた。その姿勢に変わりはないか、と再確認しました。

宮口教育長は、「いたずらに議論を長引かせることは望まない。4月以降地域に出かけ丁寧に説明していく。その中で教育環境を良くするための建設的な提案があれば、持ち帰って検討し、計画の再検討もあり得るとの考えに変わりがない」と答えました。

吉田議員の質問動画→

は、「5年間の努力が無になる。特認校は何としても残してほしい」と訴えています。コミュニティー・スクールの典型例ではないかと強調。今回の再編計画は、小規模校がゆえにできる特色ある教育実践や地域の努力へのリスペクトがほとんど見られないと厳しく批判しました。

小規模特任校について市教委の金山靖事務局長は、「これから検討していく」との答弁にとどまりました。

藤井市長

地域の衰退と結びつけるのは かけ離れた議論になる

吉田市議 学校統廃合と「まちづくり」の関連性をどう考えているのか。

藤井市長 学校再編は、5年～10年先を見据えて教育環境よくするためであり、地域の衰退と結びつけると、問題の根本とかけ離れた議論になり本質を見失う。

学校と地域活性化は一体のもの

吉田 学校は、地域コミュニティの核、学校と地域の活性化は一体である。学校も学童保育も、保育所もない地域に若者は住まない。いやだったら学校のある地域に移住が進み、周辺部の衰退を加速させるのは明らかだ。

藤井市長は「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」をかかげているが、学校再編で、「歩いて学校に通えない学校・子どもたちを大量につくる」ことになる。―それが「コンパクトシティ政策」の深化なのか。それが「幸せ日本一」富山市の近未来の姿なのか。

市長（学校がなくなっても）地区センターや公民館は残る。地域をどうしていくのかについて、自治振興会の活動を今後とも支援していきたい。

官製談合事件

呉羽山「つり橋」で何が？

別刷

市議会

ロシア非難決議 全会一致で採択

富山市議会は3月4日、ウクライナ侵略に対するロシア非難決議を全会一致で採択しました。日本共産党は自民会派などに早期決議するよう働きかけました。

全国でも例がない富山市の計画

対象地域などから60人参加

「統廃合」講演とシンポ

山本由美和光大学教授

日本共産党会派は2月27日、シンポジウム「学校統廃合を考えるつどい」を開催し、再編対象地域などから60人が参加しました。

講演で和光大学の山本由美教授は、学校統廃合の背景には政府がすすめる地方創生・公共施設等総合管理計画の推進がある、公共施設の削減＝コスト削減をはかるために学校の統廃合が標的になっていると説明。

富山市は公共施設全体の39・7％が小・中学校、市は教育環境をよくするためと強調するが、根底に「コスト削減」があると指摘。

審議会の会長は、教育者が就くのが常識的で、富山市は経済学者。これは全国的には例がないと述べました。

教育的な検討が非常に乏しい

また、富山市のような、全市を網羅した大規模な計画は全国的に例がないと述べ、①機械的に「適正規模」にする②審議会は3ヵ月半、7回の審議のうち組み合わせ論議が4回、短かすぎ③教育的な検討が非常に乏しい④ほとんどが吸収統合、学校を残してほしいとの地域の要望への検討がない、などと批判しました。

第2部 シンポジウム
左から吉田市議、中村弘之さん、堀内大地さん、山崎勇さん、山本由美教授
（2022年2月27日 サンシップとやま・福祉ホールにて）

●あなたのご意見ご要望をお寄せ下さい。

☺日本共産党 富山市議会報告☺
市議会だより

2022年5・6月 No.186
発行／富山市議会日本共産党 〒930-8510 富山市新桜町7-38
議員控室 TEL 076-443-2156 FAX 076-441-8418
メールアドレス jcp.toyashigi@kyosan.jp

富山市議会インターネット中継 検索

詳しくは富山市議会インターネット中継（録画）をごらんください。ケーブルテレビは本会議当日の生中継のみです。